

ご 挨拶

同窓会会長 有田 和男 (31回)



私は、昭和25年の梅花咲き誇る早春に、あの甲子園の学舎を巣立ちました。戦中から戦後の激動期に青春を送り、旧制から新制への狭間期に31回生として甲陽を卒業しました。このたび4月の役員総会で平田豊前会長のご推挙により新会長に選任されました。

同窓会と私との最初の関わりは、阪神大震災のあと高垣雄二郎元会長と故・山野井萬相談役、故・中島久相談役からの強いご要請を受け、専務理事の要職を引き受けさせられた時からです。その時に受けた厳命は、同窓会財政の建て直しと同窓会の活性化でした。

それから約10年の歳月が経ちましたが、平田前会長のご指導のもと、他校の同窓会を凌駕するほどの同窓会に成長しました。これは同窓生皆様のご理解とご協力を得て成し遂げた同窓生全員の成果であります。

思い返せば「母校への心の回帰」の思いが自分の心を駆け巡り出したのは、何時の年代からであったか。20・30・40代は、遮二無二戦う企業戦士として、過去を振り返る余裕は全くありませんでした。ただ、数年に一度は開催される同期会が、あの懐かしい「ああ青春の血は燃えて…」の校歌と共に、母校に思いを馳せる唯一の機会でした。

それが50歳の声を聞くようになり、自分の歩んできた道を振り返り、同時に第二の人生を考え始めたとき、自分史の中で最も重要な位置を占めた時代が、戦後の荒廃の中を窓ガラスの割れた学舎で、前途への不安と空腹と寒さに耐えながら、同期の仲間と共に我武者羅に学び・考え・生き抜いた甲陽時代にあったことを思い知らされました。継いで自分自身の人間形成の原点が、この甲陽にあったとの強い思いが、ひしひしと実感として胸の奥底から湧き上がってきました。

この遠くからの母校への郷愁が、何か私を同窓会に近づけたようです。そして、このたび会長の要職に選任されました。私は、会長職が例えば三角錐の頂点に立つものとは

考えていません。むしろ逆三角錐の底辺にあって、母校を支え同窓生に奉仕する、そして無償の行為で同窓会の発展に尽くすのが会長の職務と考えます。

今現在の同窓会は、時代の急速な変遷とともに一つの転換期を迎えています。それに伴い解決しなければならない難問題も山積しています。例えば、直ぐにも結論を求めて取り組まなくてはならないものを列挙すれば、

- 同窓会財政の見直しと、年会費の増額問題。
- 甲陽奨学金ファンドの充実と、醸金運動の在り方。
- 創立90周年の記念事業の企画と、その実施。
- 個人情報保護法と会員名簿の編纂・発刊の進め方。
- 新時代に即応できる同窓会組織の見直し。
- 地域甲陽会の掘り起こしと、その展開。

等々であります。これらは、同窓生の皆様と共に新時代を見据え、お互いに知恵を出し合い努力を惜しまず、先ず基盤作りを行って、常に情報公開を心掛け、じっくりと前向きに進みたいと願っています。その旗印は高垣元会長が提唱された「母校と共に歩む甲陽学院同窓会」であると考えています。

母校の伝統を生かして、新しい時代に相応しい活動に取り組む覚悟しております。同窓生の皆様方へ、ご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。そして、温かい叱咤激励を頂ければ有り難く存じます。

(題字は有田会長)

甲陽だより

発行所

〒662-0096 西宮市角石町3-138

甲陽学院同窓会

発行人 有田和男

印刷所

株式会社 小西印刷所

西宮市今津西浜町2番60号

TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用

TEL 0798-71-4888

(月・水・木 10:00~16:00)

FAX 0798-71-4890

E-mail :

fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

同窓会公式ホームページ

[http://www.koyogakuin-](http://www.koyogakuin-oba.jp)

[oba.jp](http://www.koyogakuin-oba.jp)

今すぐご予約を!

夏の恒例 会員総会

8月26日(土) 14時~17時 於: ノホテル甲子園

— 詳細は16ページに —

同窓会奨学金ファンドにご協力下さい!

— 詳細は4・5ページに —

- 〔醸金方法〕 (1) 同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの醸金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、
- (2) 三菱東京UFJ銀行芦屋支店 普通口座3998990 口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンド にお振り込み下さい。
- (2)の場合、振込人の卒業回生が分かるようにお願いします。

会長退任のご挨拶

名誉会長 平田 豊 (22回)

この度、会長職を辞するに当たり、ひとことご挨拶を申し上げます。

早いもので、6年間の任期があつという間に過ぎました。顧みて、同窓会の為に如何ほどの貢献を為し得たか忸怩たる思いもありますが、先ずは大過なくその職責を全うする事が出来たと考えています。

その間、多くの関係各位のご好意に支えられました。辰馬本家酒造、育英会、学校当局、同窓会の役員の方々、或いは又、同窓会を運営するに当たって、各種委員会の為に貴重な時間を割いて頂いた方々に、更めてお礼を申し上げます次第です。

さて、この6年間には色々なことがありました。平成14年は、甲陽学院創立85周年の年でありましたが、記念音楽祭を催し、約400名の会員を集めることが出来ました。Face to Face 折にふれお互いに顔を合わせて語り合おうではないか、ということが同窓会の基本理念であると私は考えていますが、今後とも、年に一回の夏の総会が、一層の盛り上がりを見せることを期待しています。

地域甲陽会も徐々にではありますが、立ち上がりつつあります。平成16年9月に東北甲陽会が発足しました。平成17年10月には東京甲陽ネットの会が発足しました。今後全国的な規模で、地域甲陽会が誕生することを期待したいものであります。

一方、これからの教育のあり方を考える時、その前途は多難であるように思われます。

先日も、奈良の有名な進学校で痛ましい事件が発生しました。大学医学部を志望する生徒が、父親の過剰な期待に耐えられず、自宅に放火して母親と弟妹の3人を死に至らしめた事件です。

従来の教育の基準を覆す事態に私は驚いています。教育の現場に携わる教師の方々には、私以上の驚きと戸惑いがあるものと考えます。複雑な家庭に育った事情を割り引いたとしても、このような教育の枠からはみ出した

生徒たちが、多分今後も増えていくだろう事、そしてこのことは、我が甲陽学院にも多分当てはまる事態であることを考える時、これからの教育の難しさ、責任の重さを痛感する次第であります。

今、『国家の品格』という本がベストセラーになっています。哲学とか芸術とか、文学とか科学とか、一見生活に役立たない教養を身につけて高い識見を持つこと、一朝事ある時には国家や国民の為に命を捨てることを惜しまない、そういう人が真のエリートで、教育の原点はそのエリートを育てることにこそあると著者は説いています。それが日本を救う道であるという説に私は強い共感を覚えています。

今の世相を思う時、百年河清を待つ思いがしなくてもありませんが、私は甲陽学院がその期待に応えてくれるのではないかと考えています。

幸いにも、私は年に一回、会長として甲陽高校の卒業式に招かれ、祝辞を述べる機会に恵まれました。孫よりも若い生徒達の顔を見ながら、間違い無く育ってくれよと祈ったものでした。いずれ日本の国の命運を担うであろう若者達の前途が、輝きに満ちたものであってくれと祈ったものでした。

甲陽ファン্ডはそういう思いの中から生まれたものと云ってよいと思います。ファン্ড誕生の詳細については、今までの甲陽だよりの中で説明されていますので重複を避けませんが、生徒に対する奨学金だけでなく、教師の方々の海外研修とか、母校の多岐にわたる教育活動に対してサポートが出来るようになればと夢を描いています。

最後に、同窓生諸兄の6年間にわたるご支援に更めてお礼を申し上げます。会長の後任としては、有田和男氏を迎える事となりました。同窓会事務を知悉した有能な士であります。

同窓会運営も色々な問題を抱えていますが、会長を中心として、一致団結して一層の飛躍をされんことを祈念してご挨拶と致します。

有田新会長選出

4月25日に開かれた役員総会にて、平成18・19年度の会長の選出が行われました。席上、平田豊前会長から辞意が表明され、有田和男氏が新会長に選ばれました。また、監事3名が再選されました。その後、有田新会長から各役員への委嘱が行われ、また、各委員会では委員長の互選が行われましたので、以下にその結果を掲載いたします。

役 職	氏 名	回 生
名誉会長	平田 豊	22
会 長	有田 和男	31
副 会 長	中村 貞三	35
	西村 貞一	45
	大川 貴史	55
	宗田 久雄	高商1
相 談 役	西松 龍一	1
	建内 保興	12
	高垣雄二郎	15
顧 問	横内 昭	34
	尾山 啓二	35
	田村 真也	36

役 職	氏 名	回 生
顧 問	守殿 貞夫	41
専務理事	今西 昭	57
常務理事	小西 博夫	29
	水野 寛	34
	田村 坦之	39
	揚野 寛	45
	山崎 仁嗣	47
	辰野 久夫	51
	河内 厚郎	52
	佐藤 秀明	53
	箱田 光信	57
	梅谷 幸弘	67

役 職	氏 名	回 生
監 事	川端喜佐男	22
	渡邊 功	43
	水島 昇	49

会報編集委員会		
委 員 長	大川 貴史	55
会員総会運営委員会		
委 員 長	揚野 寛	45
奨学金ファン্ড管理委員会		
委 員 長	塩谷 洋一	35

※役員の際は会則第10条による。
※委員会については会則第28条による。

甲陽学院同窓会「公式ホームページ&アーカイブス」運営特別部会

部会長 花木 繁 (42回)

2006年4月1日、一昨年開設準備に入ってから多くの人々のご協力を得て、同窓会アーカイブスの開設の準備と公式ホームページの開設に取りかかってきました。また、今後資料が増加するアーカイブスのデータ集積方法の検討と集積データからの公開画面への自動変換プログラムの作成・試験運用の実行も終了し、やっと公開をすることが出来るようになりました。あくまでも同窓会委員での手作りを基本に作り上げておりますので、会員各位からのご指導により今後更に改良を加え、会員親睦と同窓会からの情報発信基地として、また、半年に1度発行される同窓会便り（甲陽だより）の間を補完する情報源として、育てていってくださることを願っております。



ホームページアドレス：<http://www.koyogakuin-oba.jp>
 又は：<http://www.甲陽学院同窓会.jp>
 会員専用ページのID：koyoach
 パスワード：gkoyo

構成

1. スタートページ（学院歌のBGM付）
2. 会長の挨拶：甲陽アーカイブスの発足にあたって
3. 左側の枠にINDEXより、各情報にワープ
 - ①同窓会組織について：現行の組織の一覧表
 - ②役員構成名簿：会長から各学年の幹事の一覧表
 - ③委員会報告：常設委員会・特別部会からの報告事項
 - ④事務局連絡事項：事務局からの連絡事項
 - ⑤会員情報：訃報速報等
 - ⑥総会・地域会。学年会情報：会合の情報
 - ⑦会報等情報：デジタル会報（61号から73号まで収録済み）今後、古い甲陽だよりについても、デジタル化が終了したのから順に収録していく予定です。

- ⑧アーカイブスへの接続窓口：アーカイブス情報にリンク
 - ⑨イベント&リンク情報：公開学校行事、学年会・地域会のホームページへのリンク情報
 - ⑩情報収集窓口：アーカイブス収録情報の収集、⑤～⑨に関する情報の投稿
 - ⑪要望・意見等の投稿窓口：ホームページやアーカイブスの構成に関する意見等の投稿窓口
4. ログアウトページ：甲陽応援歌のBGM付
 5. アーカイブスは、他薦・自薦を問わず寄せられた情報を公式ホームページ&アーカイブス運営特別部会の委員の間で協議し、収録が適当と判断出来るものは、出来るだけ多く公開する。
 なお、ホームページ上ではすべてを公開できない（著作権、サーバーの保存領域容量等の問題もあり）ため、資料の公開了承がとれた画像と内容の概略等の公開にとどめ、資料がどこに保管され、みることが出来るのかを、リストアップする。
 6. 資料が充実し、公開が適当と考えられる時期が到来した時には、現在会員専用ページ（IDとパスワードが一致しないとアクセス出来ないページ）となっております「アーカイブス」は公開ページといたします。
 7. 将来は、デジタル画像の集積も多くなることを考慮し、現在250メガバイトのサーバー容量も時期をみて、2～3ギガバイトまで増設が出来ればよいと考えております。

アーカイブスは、会員の皆様からの情報提供が無くしては、資料充実は不可能と考えられます。情報提供にご協力をお願いいたします。

また、同窓会公式ホームページへは、各学年・地域同窓会・クラブ会からのリンクは制限をいたしませんので、広く同窓会会員各位へのPRをお願いいたします。

是非、甲陽同窓会会員に愛され、楽しんでいただけるホームページとして、末永く育てていってくださることを願っております。

2006年6月9日



甲陽学院同窓会奨学金ファンドにご協力を

甲陽だより72号、73号においてご報告申し上げましたように、「甲陽学院同窓会奨学金ファンド」を同窓会の皆様の絶大なご支援のもと無事立ち上げることができました。立ち上げの段階から昨年度の募金活動まで、横内昭氏（34回）を委員長にして執り行ってまいりました。その結果、2006年6月28日までに個人・法人から175件の協賛を得ることができ、醸金総額は2,091万円になりました。しかし、この奨学金制度をより盤石のものにし、永続させるためには、一層の基金の充実を図る必

要があります。その趣旨に則り、ファンド管理委員会では本年度の委員長として塩谷洋一氏（35回）を選出し、当番学年の35回生を中心として、回生を超えて広く関係各位にご協力を呼びかけ、今後ともますます多くの方々からの醸金を募り、当ファンドへのご理解のさらなる浸透を図りたく思っております。以下にファンド募金要項を掲載いたしますので、何卒よろしくご協力くださいますようお願いいたします。

甲陽学院同窓会奨学金ファンド募金要領

1. 募金母体

甲陽学院同窓会（任意団体） 代表者：有田和男
（31回）同窓会長

2. 募金の単位

個人 一口 1万円
(口数、回数の上限はありません)
法人（またはグループ）一口 10万円
(口数、回数の上限はありません)

3. 募金開始時期

毎年当番学年（2006年度は35回生）が関係者に広く募金の呼びかけを行い、年度の募金目標の達成を積極的に目指します。なお、受給者への奨学金支給は2006年度からになります。

4. 税法上の扱い

払い込まれた寄付金については、同窓会が領収書を発行いたしますが、募金母体が任意団体であるため、当面は個人、法人ともに所得税の軽減の恩典はありません。

5. 募金箱

2015年までの募金目標額を現金で1億円としますが、年度内の支給額と基金としての積立額の割合は当年度の入金状況を勘案して「奨学金ファンド管理委員会」の審議を経て同窓会総会または同窓会理事会の承認を必要とします。

6. 振込先

下記の銀行口座をご利用ください。
三菱東京UFJ銀行芦屋支店 普通口座 3998990
口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンド

なお、不動産、証券類、遺産の生前遺贈についての受け入れ方法は、その都度同窓会事務局にお問い合わせください。

7. 募金対象

主たる対象は本学卒業生ですが、新旧教職員、在校生および卒業生の保護者、その他関係者、篤志家の個人、法人を問いません。

8. 基金の管理

本ファンドは同窓会に新たに設けられる「奨学金ファンド管理委員会」が、別途に定める「運用規則」に基づき安全、確実に運用・管理しますが、必要に応じて信用ある外部機関（例えば信託銀行）に委託することがあります。また、定期的に同窓会監事の監査を受けます。

9. 基金の用途

本ファンドは原則として運用の果実を原資として、家庭の経済的な理由で奨学金の支給を希望する在校生の中から、ファンド管理委員会と本学教員が一定の選考基準を満たしたと認めた若干名に返還不要の奨学金を給付します。

10. 拠出者の顕彰

基金への拠出者は個人の場合は氏名および卒業年度（卒業生の場合のみ）、法人またはグループの場合は法人名またはグループ名のみを同窓会報に記載しますが、匿名希望の場合はその限りではありません。個々の金額については、同窓会において記録として永久保存し、特別の公開理由を管理委員会が認めた場合以外は部外公表いたしません。

以上

同窓会奨学金給付開始

本年度から下記募集要項(抄)に基づき、奨学生を募りましたところ、定期採用奨学生として25人の応募がありました。校内に設けた選考委員会において厳正に審査した結果、5名の採用が決定しました。

甲陽学院同窓会奨学生募集要項(抄)

申込資格 2006年度に甲陽学院に在籍している生徒で、人物・学業ともに優れ、健康上修学に支障がなく、経済的理由により修学に困難があると認められる者。

定 員 定期採用奨学生の定員は各学年1名。

選 考 校内の選考委員会において審査の上、奨学生を決定する。

給付額 奨学金は「給付」とし、給付額は一人あたり年額20万円。

資格継続 中学校在学中に奨学生になった者は、原則として中学校在学中はその資格を継続するものとする。高等学校在学中に奨学生になった者は、原則として高等学校在学中はその資格を継続するものとする。ただし、奨学生として適当でないと校内の選考委員会から判断された場合、奨学金の給付を停止することがある。

緊急採用 家計急変者を対象とした緊急採用は、別途審査する。

醸金額分布状況

前ページに同窓会奨学金ファンド募金要項を掲載いたしました。具体的には望ましい醸金額を教えて欲しいという声をよく耳にします。醸金額はあくまでも協賛して下さる方々のご意思・ご判断にお任せすることを原則にしておりますが、ご参考までに、これまでの醸金額分布状況を記載いたします。なお、複数回に分けて醸金して下さっている方もおられますが、それぞれを1件として数えております。

10,000円	74件
20,000円	16件
30,000円	20件
50,000円	21件
100,000円	21件
150,000円	2件
200,000円～	5件
300,000円～	6件
500,000円～	6件
1,000,000円～	4件

2006年2月11日以降6月28日までにファンドに醸金くださいました方のご芳名を以下に掲載いたします(敬称略)。まことにありがとうございました。(2006年2月10日以前に醸金された方は73号に掲載しております。)

16回 岡本 俊輔	35回 藤田 一郎	42回 水野 学	60回 田村 泰章
18回 森本 浩	35回 吉田 龍二	42回 友国紘一郎	61回 山本 康博
18回 今野 英一	35回 廣本 健	43回 西園寺幸夫	61回 原田 猛雄
21回 中尾 武生	35回 寺澤 洋介	44回 永井 隆	61回 土屋 宏
21回 長村 卓	35回 内田 眞朗	45回 小林 智夫	62回 吉岡 泰彦
22回 田中 元治	35回 三木 正之	45回 亀井 康夫	62回 栗栖 孝一
22回 筑井 正之	35回 中野 正道	47回 太田 成三	62回 相原 和彦
22回 上村 敏彦	35回 中村 文一	47回 今井 洋一	64回 伊達 尚範
22回 山岡 淳男	35回 吉田 恭平	48回 岩谷 滋	64回 杉本 佑一
23回 内田 稔	35回 宮原 滋	48回 保田 高司	64回 村山 徹
23回 伊藤 篤	36回 福田 達	49回 井上 恵介	67回 杉本 雅則
24回 鐘ヶ江輝男	36回 但井 浩二	49回 深澤 高士	67回 山川 博達
25回 渡邊 正雄	37回 豊田 茂男	49回 水島 昇	67回 坂 好博
27回 松原 市郎	37回 田中 誠二	50回 富岡 進	69回 大津 雅亮
27回 光野 昭	37回 金川 宏	50回 岩朝 央	70回 片岡 孝治
27回 武田 克巳	38回 羽田 英彦	51回 船津 康次	72回 林 正紀
27回 石川 浩	39回 森内 孝彦	51回 田上 豊明	76回 柴田 昭久
27回 望月 信彰	39回 西牧 駒藏	51回 梅原 一彦	76回 寺原 誠
30回 辰馬 碩	39回 松木 浩	51回 大村 武久	80回 西村 邦行
31回 岡 泰久	39回 杉本 和之	54回 岡 進	83回 中野 俊介
31回 関本 勇	39回 松村 光雄	55回 時政 光雄	86回 西垣 翔
31回 有田 和男	39回 泥 光重	55回 上原 一浩	工経 河合 康美
33回 竹原順三郎	40回 山村 俊郎	56回 坂野 康郎	高商1 中田 宏
33回 池上 吉藏	40回 林 範一	57回 白尾 誠二	造船1 芝池 正光
33回 井上 進	40回 赤司 久明	57回 谷村 雅一	87回生育友会運営委員会
34回 年森 博幸	40回 金井 孝憲	57回 井上 直人	在校生保護者 山村幸治
34回 森 達哉	40回 篠田 勝郎	57回 森口 信二	(醸金総額20,910,000円)
34回 黒住 始	41回 吉村 恂	57回 関家 一雄	
34回 三枝 熙和	41回 守殿 貞夫	58回 安積 聡	
34回 森本 登	41回 五十田安夫	58回 豊田 正宏	
35回 北村 彬	42回 雨森 宏一	59回 島本 佳憲	
35回 尾山 啓二	42回 辻 卓史	60回 綿谷 卓	

※前号でお尋ねしましたキダ氏は貴田忠三氏(18回)と判明いたしました。御協力有難うございました。

学校だより

大野先生 兵庫県功労者（教育部門）に

大野哲哉先生（保健体育）が教育部門における県功労者として兵庫県知事から表彰されました。県功労者は、教育や文化など20部門で顕著な功労のあった人を表彰する制度です。大野先生は1975（昭和50）年に本学院に赴任されて以来中学校・高等学校で教鞭をとっておられます。このたび、その大野先生からご寄稿をいただきました。

「県教育功労者表彰を受けて」

大野 哲哉



この度、学校長のご推薦により兵庫県知事より教育功労者表彰を受賞させていただき身に余る光栄に存じています。

甲陽学院に奉職させていただき31年が経過しましたが、この間、諸先生方との関わりのなかで、ご迷惑をかけなが

らも心温かいご指導を賜り心より感謝申し上げます。また日々の学校教育では、優秀な生徒諸君との素晴らしい出会いのなかで、新鮮な刺激を受けながら有意義な日々を送っている事に、喜びを感じています。更には、卒業生の皆さんには今尚、敬意あふれる態度で接して下さり有意義な一時を過ごさせていただいている事に、大いなる感謝をもいたしております。

公立高校より1975年4月に本学院に就任し今日に至りますが、その大半を中学、高校と生徒指導に携わってきました。その中で指導主任として、時として適正を欠き諸先生方に多大なご迷惑をおかけした事も、過去に何度ありました。また緊張した日々の生活が途切れ、何ら

かの気の緩みで問題行動を犯してしまった生徒に対し甲陽生としての責任と反省を促さなければならない時が、指導主任としては、まさに千辛万苦の思いで心痛める事もありました。

そもそも生徒の規範意識の育成には、保護者及び我々教師をはじめ周囲の大人たちが「いけない事はいけない」と毅然とした態度で善悪の判断を教える事が重要になると思います。学校教育において生徒指導を通じて出来る事は、予めルールの明確化を図り、生徒又は保護者等に対してその周知徹底を図り日常的な指導の中で教職員が一丸となって粘り強い指導をしていく事が最も必要ではないかと思っています。

その事を通じて、予め定められたルールを生徒達が自主的に守り、自らの行動を律する事ができるよう「自己指導力」を育成することも重要だと思っています。生徒達も様々な課題を持っているため自己の力だけでは正しい行動ができず、指導を通じて事態が改善されない事態が生じる度に生徒指導の困難さ厳しさを私なりに痛感していますが、この度の受賞に恥じないよう残り少ない教職生活を甲陽学院の一教師として職務を遂行し、優秀な生徒諸君と有意義な学校生活を日々過ごせればと願っているところです。

2006年6月20日



北村惣一郎氏（40回） 学校法人辰馬育英会理事に就任

昨年度まで理事をされていた花房秀三郎氏（28回）が勇退されたことに伴い、このたび、北村惣一郎氏が理事に就任されました。北村氏は、本学院を1959（昭和34）年に卒業後、大阪大学医学部に進学され、1997年国立循環器病センター副院長に着任、2000年に同院長、2001年に総長就任、現在に至っておられます。胸部外科、特に心臓血管外科を専門にされ、学会等の要職を歴任、世界的権威としてご活躍中です。1991年日本医師会医学賞、2003年紫綬褒章など多くの顕彰を受けておられます。

2006年度中学校入学生から 5クラス制に移行

甲陽だより73号でもお伝えしましたように、今年度中学校入学考査から募集定員を増員することにいたしました。従来、1学年3クラス制で、1クラスの人数が55名でしたが、今年度からは1学年5クラスとしたため、1クラスの人数が40名強になり、一層のゆとりをもって日々の授業に臨んでいます。2・3年生が3クラス、1年生が5クラスで、体育祭などの行事での混乱も心配されましたが、3年生を中心に、さまざまなアイデアを出しながら、生徒会の予想を上回る見事な運営で無事に執り行われています。

学校だより

お世話になりました

今春、中倉邦雄先生と中学校事務長の森川廣澄さんが退職されました。中倉先生は国語のご担当で勤続20年、森川事務長は勤続9年でした。今回、お二人からご挨拶を頂戴しました。

退職の辞

中倉邦雄



「あな楽し 桜桃梅李
早ふたとせ」

1986年の麗らかな4月7日入学式、73回生167名の毬栗坊主の可愛い子供たちが、少し緩めの黒い制服に大きめの帽子を被って登場しましたが、昨日のように目に浮かびます。中学3年生の1月に

髪型が自由化になりその毬栗頭も高等学校に入学する頃には見かけることができなくなりました。大阪の公立高等学校で20余年、高校生特に高校3年生を教えることが多かったために、声変わりのしない毬栗頭の中学1年生の声、我が脳味噌をグラグラさせ、夜、家で読書することが暫く出来なかったのも楽しい思い出です。

「お好きなように授業を押し進めて下さい」のお言葉により、甲陽学院にお世話になりましたのですが、まったく自己流の自由な授業を、優しくお許し下さった泰然自若な先生方と、「肉体的嫌悪感」を抱かせる生徒が一人も存在しなかったことが、最も幸せであり、20年という赤ん坊が成人式を迎えるという永き歳月を、気分よく楽しく勤務出来ましたことには感謝の言葉もございません。

素敵な卒業生とは、①私より早く死んではいけない、②卒業してから茅屋を訪問してはならない、③結婚式には招待しない、と述べ続けておりましたが、忠実に三箇条を遵守してくれている人、②・③に抵触した人も、皆①を守り続ける誠に素晴らしい卒業生です。

中国文学者吉川幸次郎先生の「きみはなぜ京大にはいるか」の文章に触れ、中国文学を専攻したこと、「芸術は連続し得ないが、教育は連続し続ける」と、講義で述べられた教育学者鯉坂二夫先生によって、私の人生の方向が決定したのですが、甲陽学院での諸君との邂逅が、不幸なものではなかったことを切に願いながら、甲陽学院に幸あれと祈りつつ、「梅が香の 下校のチャイム 吾にも又」“さようなら”

退任に当って

森川廣澄



平成9月4月に山本事務長の後を引継ぎ、爾来9年間甲陽学院にお世話になり、本年3月末定年により退任いたしました。

着任当初は不手際の連続でした。出納事務・給与事務・私学共済事務・予算管理・県私学課との折衝・学校諸行

事・工事の立会い等々色々やっているうちに仕事の範囲が広いのには驚きました。そんな中で、私は事務と校務員の皆が一緒に取り組む大切さを痛感いたしました。

今振り返って思い出すのは、あの池田小学校の事件です。一人の人間によって幼い大勢の児童が殺害されたあまりにも理不尽な出来事は学校関係者に大きなショックを与えました。それ以降、学校の安全が喫緊の課題となり、早速学校もガードマンを雇い生徒の安全には万全の体制をとりました。

また、在任中には県下の事務連絡会や県下私学の会合に出席し、他校が少子化の中にあって、必死に経営努力をされていることを知るにつけ、なんと本校が恵まれているかを実感しました。が、それに安閑とはしておかず、本校もいよいよ1クラス40人学級に移行することになりました。

そして、石川校長が終戦時、朝鮮より引揚げる際、体験された筆舌に尽くし難い苦難を語られた言葉が忘れられません。またある時、校長が新潟の小千谷高校生のときスキーのインターハイに選抜され、兄にスキー板を買って欲しいとねだり、兄は生活が困窮していることなど一切喋らず新聞配達をしながら弟の為にスキー板を買ってくれたんだという話をお聞きした時には、ジーンと胸に迫る感動を憶えました。

あと僅かで本校は創立90周年を迎えます。我が甲陽学院の益々のご隆盛をお祈りしつつ、退任の挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

会 務 報 告

1 はじめに

平成17年度の会務につきまして、平成18年4月25日に開催されました役員総会の議事内容にしたがってご報告いたします。

当年度は、急速に進む社会の変遷に対応しながら、同窓会活動も一步一步ではありますが堅実に推移しております。ここに特筆すべきは「甲陽学院同窓会奨学金ファンド」の設立であり、困難を克服して順調な歩みを始めつつあります。これは偏に皆様方のご理解とご協力の賜物であり、ここに厚く感謝申し上げます。

2 各委員会活動について

(1) 会報編集委員会

昨年7月に会報「甲陽だより」第72号を、今年2月に第73号を発行しました。第73号より、会報の送付にあたり従来の三つ折りをやめて封入することを試みました。今後、内容面の充実はもちろんのことですが、送料の節約の為に年1回の発行としてはどうか、とのご提案もあり、皆様のご意見を伺いたいと存じます。

(2) 会員総会運営委員会

平成17年度の会員総会は、昨年8月27日(土)にノボテル甲子園で、新入会員(86回生)を含め約200人が集い開催されました。

第1部は、阪神淡路大震災から10年ということをおまえて、京都大学防災研究所所長の河田恵昭先生をお招きして、「迫り来る巨大地震の脅威と、それへの備えについて」をテーマに、スクリーン映像を用いて熱弁を披露されました。

第2部は懇親会で、ご寄贈いただきました日本酒「白鹿」とサントリーのビール・ウイスキーが、懇親の場を盛り上げ、懐かしい思い出を語り合う一時を過ごすことができました。

ホームカミングの学年(卒業後50年と25年)は、36回生と61回生で、記念品を贈呈しました。企画・実行にあたる当番学年は56回生で、各委員の皆様にはご尽力を賜りました。

(3) 奨学金ファンド管理委員会

平成16年度の役員総会でご承認を得て発足しました当委員会は、年度内に7回の委員会を開催しました。「募金活動分科会」「企画分科会」「広報分科会」「選考分科会」に分かれて、新たに設立した奨学金ファンドの管理運営にあたりました。

醸金にご協力いただいた皆様に厚く感謝を申し上げます。(醸金の状況については本会報4頁・5頁に掲載の通りです。)また、今年7月には、母校在校生に第1回目の奨学金が給付される予定です。

本年度は募金活動の中心となりました34回生が委員長を務めました。新年度は35回生から委員長を選任し、委員会の定員を12名に増員するとともに、各分科

会の委員も一新して一段と活発な活動を続けていくことになっておりますので、皆様のご協力をあらためてお願い申し上げます。

(4) 甲陽アーカイブス準備部会

本会報の3頁をご参照ください。

3 個人情報の保護について

昨年4月の役員総会で、同窓会としての個人情報の保護について説明を行いご了解を得ました。その後も、同窓会が保有する個人情報については、万全の注意をもって、その保護体制の確立に努めています。

なお、同窓会事務局にあるパソコンについては、会員名簿専用のパソコンを設けて、外部からの接続を遮断して使用しておりますことを付け加えます。

4 地域甲陽会の活動について

昨年度の「東北甲陽会」の発足に続いて、継続開催が困難になった「東京甲陽会」を引き継ぎ、これを新しく発展させる形で「東京甲陽ネット」が新たに発足いたしました。昨年の10月28日に第1回の交流会が60名近くの参加者を得て開催されました。

5 平成17年度の決算報告について

当年度の決算については、次頁に掲載の決算書が役員総会に報告され、監事からの監査報告を受けて、承認されました。

収入面では、予算計上額に対して約86万円の収入不足が生じました。一方支出面では、予算計上額に対して約68万円の支出削減が行われました。

6 平成18年度の活動方針と予算について

平成18年度の活動方針として、次の各項が承認されました。

- (1) 会員総会を8月26日(土)にノボテル甲子園にて開催する。
- (2) 会報「甲陽だより」を年2回発行する。
- (3) 委員会の編成と活動に付いて、常設の委員会として「会報編集委員会」「会員総会運営委員会」「奨学金ファンド管理委員会」を設ける。また、臨時の委員会として「会務運営委員会」「創立90周年記念事業企画委員会(仮称)」「会員名簿編纂委員会」「甲陽アーカイブス運営・管理委員会(仮称)」を企画する。
- (4) 奨学金ファンド募金活動の積極的な推進をはかる。
- (5) 各支部・地域甲陽会・企業甲陽会の結成促進と協力をはかる。
- (6) 甲陽アーカイブスと同窓会公式ホームページの本格稼働に努める。

以上の活動方針をふまえ、本頁に掲載の平成18年度予算書が承認されました。

7 新会長選任の件

本年の役員総会は、任期満了に伴う会長改選の年にあたります。3期6年会長を務めた平田豊氏(22回生)から強い辞意の表明があり、慰留する意見も出ましたが、辞意は翻ることなく、それを受けて新会長として有田和男氏(31回生)が満場一致で選出されました。この改選により、16・17年度の役員はすべて任期を終えました。(有田新会長による新しい役員への委嘱は本会報2頁に掲載した通りです。)

8 新監事選任の件

監事も任期満了に伴って改選が行われましたが、3名の監事については全員再選されました。

以上4月25日に行われました役員総会の議事にしたがって、会務の報告とさせていただきます。

●平成17年度決算報告書●

[収入の部]			[支出の部]				
科目	決算額	予算額	差引額	科目	決算額	予算額	差引額
会費	9,126,000	10,000,000	△874,000	人件費	2,107,440	2,116,000	△8,560
※年会費	1,975,000	2,000,000	△25,000	※月手当	1,536,000	1,536,000	0
※終身会費	2,696,000	3,000,000	△304,000	※夏冬手当	300,000	300,000	0
※新卒入会金	609,000	600,000	9,000	※通動費	271,440	280,000	△8,560
※新卒年会費	1,421,000	1,400,000	21,000				
※新卒終身会費	2,425,000	3,000,000	△575,000	交通費	77,380	200,000	△122,620
会報広告料	40,000	60,000	△20,000	需要費	703,198	600,000	103,198
総会会費収入	656,000	700,000	△44,000	※通信費	394,306	500,000	△105,694
利子収入	2,070	20,000	△17,930	※事務消耗品費	70,143	80,000	△9,857
				※備品費	238,749	20,000	218,749
雑収入	31,500	0	31,500	会議費	2,520,251	3,000,000	△479,749
寄付金	66,000	0	66,000	※会員総会費	1,574,609	1,700,000	△125,391
収入合計	9,921,570	10,780,000	△858,430	※役員総会費	244,794	250,000	△5,206
甲陽F預り金	510,000	0	510,000	※理事会費	172,581	250,000	△77,419
基本金解約	0	0	—	※委員会費	347,610	600,000	△252,390
				※懇談会費	180,657	200,000	△19,343
繰越金	9,490,002	9,490,002	0	事業費	3,377,874	3,540,000	△162,126
				※甲陽だより	856,537	1,000,000	△143,463
収入総計	19,921,572	20,270,002	△348,430	※郵送料	1,544,280	1,500,000	44,280
				※振替用紙代	164,430	120,000	44,430
				※封筒代	144,585	120,000	24,585
				※記念品代	548,042	600,000	△51,958
				※母校後援費	120,000	200,000	△80,000
				雑費	325,553	340,000	△14,447
				※校内誌	40,000	40,000	0
				※慶弔その他	172,068	100,000	72,068
				※振替料	81,250	100,000	△18,750
				※その他雑経費	32,235	100,000	△67,765
				支出合計	9,111,696	9,796,000	△684,304
				特別立入金繰入	97,000	97,000	0
				予備費	0	10,377,002	△10,377,002
				支出総計	9,208,696	20,270,002	△11,061,306
				収入総計	19,921,572	—	—
				支出総計	9,208,696	—	—
				翌年繰越金	10,712,876	—	—

(単位：円)

●終身会費・各回別納付金額設定表●

回生	金額	回生	金額	回生	金額
1回	10,000	33回	10,000	65回	25,500
2回	10,000	34回	10,000	66回	26,000
3回	10,000	35回	10,500	67回	26,500
4回	10,000	36回	11,000	68回	27,000
5回	10,000	37回	11,500	69回	27,500
6回	10,000	38回	12,000	70回	28,000
7回	10,000	39回	12,500	71回	28,500
8回	10,000	40回	13,000	72回	29,000
9回	10,000	41回	13,500	73回	29,500
10回	10,000	42回	14,000	74回	30,000
11回	10,000	43回	14,500	75回	30,000
12回	10,000	44回	15,000	76回	30,000
13回	10,000	45回	15,500	77回	30,000
14回	10,000	46回	16,000	78回	30,000
15回	10,000	47回	16,500	79回	30,000
16回	10,000	48回	17,000	80回	30,000
17回	10,000	49回	17,500	81回	30,000
18回	10,000	50回	18,000	82回	30,000
19回	10,000	51回	18,500	83回	29,000
20回	10,000	52回	19,000	84回	28,000
21回	10,000	53回	19,500	85回	27,000
22回	10,000	54回	20,000	86回	26,000
23回	10,000	55回	20,500	87回	25,000
24回	10,000	56回	21,000	高商・1	10,000
25回	10,000	57回	21,500	高商・2	10,000
26回	10,000	58回	22,000	高商・3	10,000
27回	10,000	59回	22,500	高商・4	10,000
28回	10,000	60回	23,000	機械・1	10,000
29回	10,000	61回	23,500	機械・2	10,000
30回	10,000	62回	24,000	造船・1	10,000
31回	10,000	63回	24,500	造船・2	10,000
32回	10,000	64回	25,000	工業・1	10,000

※81～87回は前納年会費以外に上記の金額となります。

(単位：円)

●平成18年度・予算書●

[収入の部]			[支出の部]				
科目	18年度	前年度	差引額	科目	18年度	前年度	差引額
会費	10,000,000	10,000,000	0	人件費	2,116,000	2,116,000	0
※年会費	2,000,000	2,000,000	0	※月手当	1,536,000	1,536,000	0
※終身会費	3,000,000	3,000,000	0	※夏冬手当	300,000	300,000	0
※新卒入会金	600,000	600,000	0	※通動費	280,000	280,000	0
※新卒年会費	1,400,000	1,400,000	0	交通費	200,000	200,000	0
※新卒終身会費	3,000,000	3,000,000	0	需要費	680,000	600,000	80,000
会報広告料	60,000	60,000	0	※通信費	500,000	500,000	0
総会会費収入	700,000	700,000	0	※事務消耗品費	80,000	80,000	0
利子収入	20,000	20,000	0	※備品費	100,000	20,000	80,000
				会議費	3,000,000	3,000,000	0
雑収入	0	0	0	※会員総会費	1,700,000	1,700,000	0
寄付金	0	0	0	※役員総会費	250,000	250,000	0
収入合計	10,780,000	10,780,000	0	※理事会費	250,000	250,000	0
甲陽F預り金	0	0	0	※委員会費	600,000	600,000	0
基本金解約	0	0	0	※懇談会費	200,000	200,000	0
繰越金	10,712,876	9,490,002	1,222,874	事業費	3,540,000	3,540,000	0
				※甲陽だより	1,000,000	1,000,000	0
				※郵送料	1,500,000	1,500,000	0
				※振替用紙代	120,000	120,000	0
				※封筒代	120,000	120,000	0
				※記念品代	600,000	600,000	0
				※母校後援費	200,000	200,000	0
収入総計	21,492,876	20,270,002	1,222,874	雑費	340,000	340,000	0
				※校内誌	40,000	40,000	0
				※慶弔その他	100,000	100,000	0
				※振替料	100,000	100,000	0
				※その他雑経費	100,000	100,000	0
				支出合計	9,876,000	9,796,000	80,000
				特別立入金繰入	66,000	97,000	—
				甲陽F預り金繰入	510,000	0	—
				予備費	11,040,876	10,377,002	—
				支出総計	21,492,876	20,270,002	—

(単位：円)

第9回 リレー随筆

桜桃梅李 一時の春

酒井 一 (31回)

初めて甲陽の校舎を見たのは、学年で4つ違いの兄が入学したあとだったろうか。母に連れられ「小使さん」にひそかに案内してもらった時だ。阪神電車の線路に沿ってほぼ直角に建てられた校舎には、両翼に生徒昇降用のスロープがあり、中央部の2階・3階に豪華な講堂があった。ドイツ製のピアノがあることを知ったのは、高校2年のころだった。中央玄関ホールには確か「1929」と金属板がはめられていたと思う。この建物は1920年春に、財団法人辰馬学院甲陽中学校が創立されたあと、29年11月に竹中工務店の施工で改築、落成されたもので、子ども心にもいま注目される阪神モダニズムの雰囲気伝えて忘れがたい印象を残した。

1944年4月から50年3月までの6年間この学舎に学んだ。入学時、クラスは唐詩に歌う「桜桃梅李一時の春」に橘を加えた5組編成だったが、戦災・終戦の激動に見舞われて卒業時には3クラスに減っていた。「青春の血は燃え」た少年たちは、国家崩壊と教育の大転換を経験し、それぞれなにかを得たに違いない。私自身その後の人生観・社会観の原点はこの時期にある。アラブの諺に「子は親よりも時代に似る」というそうだが、振り返るとその感を強くする。

中学1年の時であろう、身の程も知らず、陸軍幼年学校の受験を申し出た時、甲陽卒業生の配属将校・中尉が、兄弟の数を聞き、兄は甲陽を中退して乙種特別幹部候補生になっていると答えると、「男は君一人か」と言ってしばらく間をおいた。いま思い返せば人間的な問いだったようだ。この受験には成功しなかったが、小西博夫君の兄さんに個人指導を受け、数学の知識が格段に進んだ思い出がある。中2では御多分に漏れず勤労学徒動員で尼崎の阪神電車車庫に行くことになり、虚弱児の私は武庫川沿いの農場に一時派遣された。ここでは阪神タイガースの呉昌征さんが監督だった。終生忘れがたい人格者である。農場で米機の機銃掃射を受けたことが、私の「修養日誌」に記録されている。八・一五の放送は尼崎工場で聞いた。

動員中、2年上の2人が仕事の合い間に「平行線とは」と対話しているのを小耳にはさんだ。無限大のかなたで交わる二つの直線をいうのが答だった。私の頭にあった平行線概念を打ちくだく内容で、目から鱗の落ちる思いがした。この学年とその後には、のちにウィルス学で文化勲章を受章した花房秀三郎氏や科学史の坂本賢三氏が育っている。

戦争末期、校舎の一部は暁船舶情報隊によって占拠された。国家総動員法によるものである。そして戦後アメリカ駐留軍が入ってきた。米軍は週1回ちょうど1時間目の授業の最中に、高らかに吹奏楽とともに運動場を進行していた。平素から遅刻癖のあった私は、この行進の前を最短距離をめざして通りすぎようとしたところ、米兵に逮捕された。甲陽版生麦事件か。そして「お前を沖繩に連行する」と通訳を介して伝えられた。及ばずながら英語で応答したが、通じなかった。その上で「以後このようなことのないよう、校長に伝えよ」と言われた。しかしこのことはだれにも言わなかった。ここは私たちの学校で、占領軍のものでないと少年らしく反骨心が湧き、敗戦の悲哀を味わったからである。このころ米兵が

正門前の松林や夜間の教室で傍若無人の行為をしていたことを知っていたからでもある。しかし人柄のよい米兵と知り合って甲子園球場スタンド下を訪ねて交流したこともある。

廃墟から立ち上がる私たちに、希望を与えたものの一つが、1949年の湯川秀樹博士のノーベル物理学賞受賞である。これを受けて、中間子論について大阪大学の伏見康治教授の講演があり、講堂に全校生徒が集められた。物理の伊藤健三先生が紹介を担当された。内容は記憶していないが、大学教授の話の聴いた最初だった。講堂といえば、授業中騒いでクラス全員がここで数重臣校長から personality の意味を問われながらお説教をうけたことがある。

化学の授業がわかりにくくて試験ボイコットがあったり、勝手に遠足に出かけたりした。私は少なからず変人だったので、ボイコット中も答案を書いていたし、秘密の遠足にも、積み立てで行く修学旅行にも参加しなかった。いやな男だったかもしれないが、九州みやげを届けてくれたり、病気中は「疲れたら休むがいい」とドストエフスキーとかの言葉を寄せ書きで届けてくれた。友人をいじめた上級生を職員室まで追いつめたり、授業中投げ玉を机の下において数人で破裂させたり、腕白ぶりを発揮したのが、もっとも甲陽を愛する有田和男君の若き日の姿である。

急に立ち上がって偏屈な質問をする私も、不思議に先生方に叱られたことがなく、その温情に頭が下がる思いがする。学校ぎらいになって退学を考えていたときも先生方に救われた。先日同期有志で昼食をともにした時、話が恩師の思い出に及んだ。商社マンだった鈴木登君は、数学の永井勇一・英語の半沢儀三郎・歴史の宮川秀一の3先生の名を挙げ、これにクラフツマンとして活躍する荒木真喜雄君が甲陽先輩で国語担当の北村善一先生の人柄を加えた。私自身はもう一人、歴史の高井梯三郎先生を思い浮かべた。高井・宮川両先生は実に多くの歴史学の俊英を育てられた。永井先生の数学は明快で悪童たちも美しい板書と熱意に励まされ、半沢先生には豊かな言語学の学識に触れることができた。

元気盛りの少年は、『果樹園』などのガリ版同人雑誌を出した。その表紙になんと須田剋太先生が絵を寄せられている。啄木の友人丸谷喜市校長の経済の授業は、もと著名な大学学長だけあって難しかった。授業中長身の山田耕太君（予科練経験）が立ち上がって「1ドル360円の単一為替レートの設定」について質問したところ、翌週懇切な説明があった。1949年4月のことで、71年に変動為替相場制にかわるまでの為替相場である。のち啄木の日記に丸谷先生の名が頻出することを知った。

戦後の改革で私たちは、中学4年を修了して新制高校2年に編入された。その意味では、新しい甲陽学院高校の2期目にあたるが、卒業少し前の49年に私立学校法が公布、施行され、名称も学校法人辰馬育英会甲陽学院高等学校となり、その名による最初の卒業生となった。その卒業式にも遅刻寸前すべり込み、担任の先生をやきもきさせたが、その時頂いたコンサイス判の英々辞典は今も大切に保存している。

告 知 板

☆ 同窓生の近著ご紹介 ☆

同窓会員の方から、最近出版された書籍をお知らせいただきましたので、紹介いたします。ご自身やお知り合いの方の著作物などご紹介くだされば、検討の上、甲陽アーカイブスへの掲載も考えておりますので、よ

ろしくお願いいたします。

中村文一 (35回) 『地震雲』(産経新聞生活情報センター)
小笠英志 (67回) 『4次元以上の空間が見える』(ベレ出版)
堺家史郎 (78回) 『政治的情報と選挙過程』(木鐸社)

☆ ご注意！ 住所・電話番号の問い合わせ ☆

最近、「甲陽学院同窓会」や「甲陽高校事務室」の名前を騙り、同窓生の携帯番号や住所、メールアドレスなどを問い合わせる電話がかかっているようです。

現在、同窓会や母校でそのような調査活動をしている事実はありません。

皆様には、先方の名称・住所・電話番号などをご確認いただいて、慎重な対処をお願いいたします。

☆ 新卒者の終身会費制度 ☆

今年高校を卒業した87回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。詳細は、以前に振込用紙同封の文書にてご案内したとおりです。

また、これに伴い、卒業後7年以内の方(卒業時に7年分の年会費を前納)でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額はP.9の表をご覧ください。

☆ 「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

* 次号・第75号は、来年2月末頃に発行を予定しています。

* 「会員だより(同期会・クラス会)」・「運動部・文化部のOB会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。

* 原稿の締切日は、来年1月10日です。

☆ 「ノボテル甲子園」の優待券 ☆

甲陽学院同窓会会員用に「宿泊15%割引」「レストラン&バー10%割引」の優待券を発行していただいています。2007年12月30日までの優待券が事務局にございますので、ご希望の方は、お手数ですが、事務局までお電話・FAX・Eメールにてご請求ください。

■ あて名ラベルの記号の見方

平成18年6月30日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：終身会員H11年度 ←

♪ 卒 1 1 1 | 1 1 1 0 0 | 終

② 下段には左から順に、平成元年度、2年度、…17年度の年会費のお支払い状況を示しています。

▼記号の意味

1	当該年度分の年会費を納入済	終	当該年度に終身会費を納入	♪	甲陽学院に在籍
0	未納			卒	その年の3月に卒業

従いまして、下段に含まれる0の個数 × 1000円が、未納の年会費となります。同封の振り込み用紙にてお支払いください。

★H元年以降に御卒業の方は、卒業時から7年分の年会費を予めお納め頂いております。次の二つの例をご参照下さい。

♪ ♪ 卒 1 1 | 1 1 1 1 0 | 0 0 0 0 0

H10以降は未納です。未納分をお納め下さい。

H15年分まで納付

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ | ♪ ♪ 卒 1 1 | 1 1 1 1 1

H8年3月に御卒業、さらに1年分の年会費を頂いたため、H15年度まで納付しておられます。

③尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。

既に年会費をお納めの方や終身会費をお納めの方には失礼ですが、今回も振り込み用紙を同封しております。未納の方は、よろしくお納め下さい。

① 上段には、前納の年度、または、終身会費をお支払い頂いた年度を示しています。その他の場合、この表示はありません。

会員だより



東京甲陽ネット OBセミナー

「東京甲陽ネット」(会長=45回卒・佐治信忠、世話人代表=42回・水野学)では、3月20日(月)と4月27日(木)、新宿・マインズタワーにおいて「OBセミナー」を開催しました。

第1回目は財務省九州財務局長の木下信行さん(54回卒)による「担保のパラダイム変革」、2回目は法務事務次官の樋渡利秋さん(45回)による「これからの司法制度」(写真)で、いずれも平日の夜であったにもかかわらず、多くの出席者を得ることができました。

セミナーが大好評であったのはもちろんですが、終了後のミニ交流会も大いに盛り上がり、改めて、甲陽の自由で明朗な学風や、優秀かつ人間性豊かな卒業生が多いことを実感するイベントとなりました。

「東京甲陽ネット」は関東に在住する甲陽出身者のための交流組織です。インターネットを活用したシステムを活用して、「毎日が同窓会」を謳っています。

昨年10月28日に第1回交流会を開催し成功裡に終わったことは、前号でご報告させて頂いた通りです。

「OBセミナー」はこうした交流の機会を広げ、特に若い世代が「学校と社会と人生の先輩」に数多く出会って刺激を受けていただきたいと企画されました。

今後も年3回程度(不定期)を目標に、同窓の「時の人」や「斯界の権威」「キーパーソン」などを招いて、実り豊かなセミナーを開いていきたいと思っています。

登録者数も、6月20日現在、339名に達しました。このところ、大学在学中を含む80回代や70回代の登録が相次いでいることは心強い限りです。未登録の方はぜひ後に続いて頂きたいと思えます。

(登録は<http://www.tokyo-koyo.net/>から)

なお「第2回東京甲陽ネット交流会」は10月27日(金)夕刻、開催の予定です。場所は未定ですが、9月上旬ごろHPに掲載し、メールでご連絡致します。

(報告=45回・新宮康彰)



18回 山桜会

18回山桜会については貴田君が本誌第56号(平成8年7月31日)に紹介しており、また青山君が第61号(平成12年2月23日)に昭和13年8月の第24回全国中等学校野球大会準決勝で岐阜商業に惜敗した時の主将だったクラスメート別当薫君について、彼は慶大に進み兵役から帰還後パ・リーグ本塁打王、最優秀選手に輝いた球界の紳士だったことなど書いている。私も第58号(平成10年8月1日)に学校創立80周年記念会員総会を機にクラス8名が香檳園で会食した後中学校、高等学校を訪ねたときの彼のことを写真を添えて紹介した。その時から二年も経たない平成11年4月16日に彼は亡くなった。上記野球大会について当時「甲陽学報」に書いた彼の報告はまさに名文で彼は文武両道の達人だった。

(森本 記)

20回 東京十六夜会

東京十六夜会は、昭和16年卒業の東京近郊在住の同期生会です。昭和30年代末、小林英夫君の旗振りで数名が新宿で初会合、次第に輪を拡げ、膳耕造君、村田信義君と順次世話役を引継ぎ、平成9年からは小生が務めています。開催通算回数はかれこれ50回になります。

平成6年から12年までの7年間は、春は夜の宴会、秋は温泉旅行会と活動的でしたが、いまはあれこれ勘案して、春秋とも昼席の会合に落ち着いています。平田慶三君紹介の銀座「松鶴」が定席で、時間もあまり苦にしないでくつろげるのがなによりです。

ところで、ことしは卒業65周年に当たります。なにか記念行事でもと、「懐かしの甲陽」の課題で思い出・体験談の原稿を依頼したところ、即座に11篇の応募があり、ワープロ・コピーの手作り小冊子『記念文集』を作成し(A5.P.44.限定30部)、4月18日の春季例会に何とか間に合わせることができました。

平素の会合では、耳にもしたこともない当時の模様が記述されていることに、しばしお互い感無量、そのあとは談論風発、時の経つのも忘れての語り合い、誠に楽しいひとときを持つことができました。こんどは70周年を飾りたいものです。

出席者は、加久間元之助、轡田武、小林英夫、平田慶三、森泰、横山康二郎の6名でした。(轡田 記)

22回 桜永会

昭和18年卒の桜組は、永井民之進先生(1~2年担当)と永井勇一先生(3~5年担当)の両永井先生の桜永会として、永い間高尾君、大西君、高木君達のお世話で続いて来ました。

今年は平成18年5月11日、梅田阪急ターミナルビルの日本料理「有馬」にて齢80才の会合となりました。(9名出席)遠方から勝本君(広島)伊藤君(岡山)の参加もあり、お互いの元気な姿に接し楽しいひとときを過し、昔を思い出して感無量でした。延べ60名の桜組

在籍者の一人ひとりの消息を話し合ったところ存命者は約20名～25名位と推測され、年月の経過をひしひしと感じました。次の目標は90才ということにして、皆健康に留意しようとはげましました。「あ、青春の血は燃えて…」の校歌を合唱し、再会を約して散会しました。

写真左から、高尾、伊藤、堀部、小林、大西、勝本、高木、斉藤、傍島 (傍島 記)



22回 橘友会

平成18年5月17日午後、宝塚のホテル若水に8名が集い、1年ぶりに橘友会を開催しました。

先着の4名は最上階の温泉でのんびりと体を癒し、2階の「山茶花」個室で後の4名と合流、「乾杯！」となりました。

傘寿を過ぎた高齢にもかかわらず、持病の話題交換はなく、宴たけなわとなった頃からは幽明境を異にする恩師や友人達の懐旧談に花が咲き、2時間が瞬く間に経過してお互いに元気で参集できた喜びをかみしめ、再会を約して春雨の煙る武庫川を後にしました。

写真は左から、山本、酒井、芦田、本莊、赤塚、白岡、斎藤、池田です。(酒井 記)



23・24・25回 秀光美会

秀光美会の名称の由来については甲陽だより第68号で会員の古田勝巳さんが寄稿されていますのでご覧下さい。卒業年次がそれぞれ違うのですが、昭和19年に4年終了で進学した者、20年に5年を卒業した者等、あわせて50名いました。

それが卒業以降60年を経て現在の会員数は、20名までに減りました。然しながら2ヶ月に一度 石橋毅一さんのご好意で大阪のど真ん中で昼食会を行なっております。その石橋さんが平成17年春の叙勲で、旭日重光章を授与されました。

たまたま受章の日が秀光美会恒例の春の旅行日と重なり、北陸の山中温泉河鹿荘ロイヤルホテルに行き、石橋さんの留守をよいことに彼の分までよく飲み、よく食べ楽しい一時を過ごしました。ちなみに彼の大和ハウス工業は全国に30ヶ所余りのリゾートホテルを経営してお

り、我々秀光美会は毎年春にその中のどこかを活用して楽しんでいるわけです。

彼は又、平成7年の阪神大震災の時、プレハブ建築協会の会長（大和ハウス工業代表取締役会長）として5万戸にのぼる応急仮設住宅の建設をはじめ、復興に懸命の努力をされました。会員一同で同氏の栄誉をお祝いした次第です。

今年の会員旅行は伊勢志摩ロイヤルホテルで、悪童どもがてぐすねひいて楽しみにしております。(札抜 記)



62回 同窓会

去る1月2日にノボテル甲子園に於いて62回卒の同窓会を行いました。32名の参加者の中には直前のスキーでのけがにもかわからず、手当ても早々に飛行機で帰阪、会場に直行してきた者もあり盛り上がりを見せました。当日は山下先生にもご出席いただき、甲陽学院の現状から学生時代のことまで幅広くお話しいただきました。参加者による近況報告では、働き盛りとも負の遺産を背負った世代ともいわれている我々らしい？話題でさらに盛り上がり、次回2009年の開催を決め散会となりました。

62回では従来からメーリングリストの整備を行っております。現在130名程度の登録がありますが、緊急な連絡はもちろん、日常的な交流や簡易な連絡方法を確立の観点からもメーリングリストの整備を行っておりますので、本記事をご覧になった同期の諸君は是非 koyo@watase.info まで氏名と連絡先メールアドレスをお知らせ下さい。また、最近メーリングリストが届かなくなってしまった諸君も一度ご連絡願います。毎年、メーリングリストによるミニ同窓会の案内を行っており、在阪の方を中心にミニ同窓会への参加もよろしくお願いいたします。

最後に、今年度の同窓会総会は62回卒がホームカミング学年となっております。メーリングリストなどでもご案内しておりますが、総会后に同期で集まる場の確保も予定しておりますので、同窓会総会へご参加のほどよろしくお願いいたします。(渡瀬)



山野井 萬氏 逝去



長年にわたり、同窓会相談役を務められた山野井萬氏（4回）が本年2月9日に逝去されました。謹んでご報告いたします。甲陽創立間もない1923年、野球部で全国優勝され、後に甲陽学院の野球部を指導、多くの後輩を育てられました。

山野井 萬さんを偲ぶ

甲陽学院野球部OB会
会長 望月信彰 (27回)

平成18年3月6日の毎日新聞に、「悼」元甲陽学院監督 山野井 萬さん 06年2月9日 死去 99歳

高校野球のシーズン開幕を待ちきれなかったかのような訃報だった。昨年から入院していたとはいえ、「高校野球シーズンになれば元気になると信じていた」と関係者は口をそろえた。の記事が載りました。

事実、私も春の選抜大会の頃には、フェニックスの如くお元気になり、あの温顔に接する事ができ、そして満百歳の夏には、甲子園球場のマウンドに上がり念願の始球式を楽しみにしておられましたのに。

茲に葬儀・告別式にお別れの言葉とした弔辞を抜粋し甲陽学院野球部の偉大な父 山野井 萬さんを偲びたいと思います。

あなたは、さる2月9日に享年101歳の長寿をもって天界の彼方へと旅立っていかれました。

落胆哀愁この上も無く誠に痛恨の極みであります。

山野井 萬さん いや昔どおり親しみを込めて山野井萬さんと呼ばせていただきます。山野井 萬さん、貴方は明治39年7月27日に広島県で生まれ、神戸市の諏訪山小学校を経て、大正9年4月に甲子園にあった財団法人辰馬学院甲陽中学校に入学されました。

そこで、創部日の浅い硬式野球部に入られ、毎日猛練習を積み大正12年の夏「全国中等学校優勝野球大会」に兵庫県代表として出場されました。

この大会で、伝統も無く歴史も浅い甲陽中学は初出場ながら、2回戦で当時黄金時代を誇り全国最強をもって自他共に許していた「松山商業」を3 VS 2で破り、大正10年、11年と2年連続優勝を成し遂げ、3年連続覇者を狙う強豪の和歌山中学と対戦し、激戦の末5 VS 2で退け、見事真紅の優勝旗を掌中に収めました。

この時のチームは山野井 萬さんが絶賛しておられました、宇井・岡田のバッテリーが中心となり、山野井さんはファスト・トップバッターのチャンスメーカーとし

て大活躍されました。

その後、同志社大学へ進まれましたが、当時母校の監督をしていた宇井さんが亡くなられ、請われて甲陽学院野球部の監督に就任されました。

今でこそ、甲陽学院は全国一・二を争う進学校としてその名を馳せておりますが、戦前の甲陽中学校は大正12年の優勝で一躍球界の名門校として、春の選抜野球大会に出場すること9回、夏の全国大会は4回出場し甲陽の名を全国に轟かせました。

この間監督として育て上げた名選手は、慶応の川瀬進（ユーティリティープレイヤー）・別当薫（強打者・首位打者）、早大の弘世正方（首位打者）、法政の森下重好（ホームランバッター）等々、多士済々の選手を鍛え多くの大学へ送り込まれました。

更に、戦後も引き続き母校野球部に物心両面で多大のご支援・ご指導を仰ぎえましたお蔭を持ちまして、伝統ある野球部が営々として、発展し社会人として真に役立つ人間形成の場として、その存在価値を高めております。

また、ご自分の仕事の方は、造船の町神戸に本社を置く「大正保温工業株式会社」を設立され、新造船に冷凍・冷蔵倉庫を備え付ける仕事に取り組みられ、社長として会社を順調に発展させてこられました。

私の見た 山野井 萬さんは、堅苦しい所に愛情があり、近寄りがたい威厳と信念を併せ持った明治生まれを代表する野球人でありました。

甲陽学院野球部と同OB会にとっては、古きよき時代の父といっても過言でない 萬さん あなたが身をもって示された暖かい教訓と指針は数多くの人々の心に宿り、永遠に引き継がれていくものと確信いたします。

野球部の父 山野井 萬さん どうか安らかにお眠り下さい。そうして先に泉下に赴かれた奥様・お嬢様、そして中島 久先生と心ゆくまで語り合ってください。

平成18年6月25日

江村 礼三氏 (造船1)	中條 邦夫氏 (高商3)	山崎 勇二氏 (62回)	山本 光昭氏 (57回)	江崎 裕介氏 (57回)	大久保尚能氏 (51回)	清水 康雄氏 (42回)	松尾 賢二氏 (38回)	上田 一美氏 (35回)	坊岡 望氏 (32回)	小森 弘氏 (31回)	木下 公夫氏 (27回)	大島 秀夫氏 (27回)
06年2月1日	06年5月25日	06年5月17日	06年5月15日	05年12月	05年9月11日	06年2月18日	04年2月10日	06年1月19日	04年3月27日	06年1月31日	05年2月12日	06年1月30日

柳原 博先生逝去



母校で長く教鞭をとられた柳原博先生が本年5月18日逝去されました。謹んでご報告いたします。柳原先生は甲陽を1941年に卒業され(20回)、1965年から1989年の24年間を教諭として、さらに1年間講師として母校で社会科の授業を担当されました。

柳原先生の思い出

栗野仁雄 (56回)

6月1日夜、神戸市の自宅で雑誌原稿を書いていた時、電話が鳴りました。奥様の富子様から「実は主人が・・・」と先生が83歳で亡くなられたことを知りました。言葉もありませんでした。入院されたことは伺っていましたが。「お見舞いに行かなくてはい」と思いながら多忙にかまけていました。「後悔先に立たず」とはまさにこのことです。先生、お見舞いにも行かず本当にごめんなさい。

僕が柳原先生と出会ったのは昭和47年、当時甲子園球場のすぐ近くだった甲陽学院高校に甲陽中学から上がった時です。政治経済と倫理社会を教えていただき、2年、3年はD組の担任でした。フォークソングやロックが全盛で級友の多くがビートルズのような長髪でした。すごい勉強するのに遊び人ぶる「ええ格好しい」も多かったのですが、みんな先生を「やあさん」と呼んで親しんでいました。

お気に入りだった草色の背広や薄黄色のワイシャツ姿を思い出します。夏にはスリッパ姿で扇子をばたばたと扇ぎながら教壇に立っておられました。50歳くらいでしたが頭部だけは達磨の如く見事に、しかし品よく禿げ上がっていました。職員室の引き出しには昼食用なのかカップラーメンが転がっていた質素なお人柄でした。

柳原先生は一見、全国に冠たる進学校の早熟な生徒を大人扱っているようにも見えましたが、実は温かく一人一人を見守ってくださっていました。僕の成績は激しく落ちこぼれていましたが、先生のおかげで「学校に行きたくない」と思ったことは一度もありません。

柳原先生は教え子に対して内心「困ったな」と思いながらもまずは褒めるところを探し出し、思春期の僕たちを追い詰めることはありませんでした。

大学卒業後、新聞記者となった僕は北海道など東日本中心に赴任し、関西は遠くなりました。先生にほぼ20年ぶりに再会したのが11年前のあの阪神・淡路大震災でした。地震発生数日後、休暇を取り新幹線に飛び乗りました。両親はとっくに東京に移っており、困り果てた末に思い出したのが先生でした。

梅田からの阪急神戸線は西宮北口駅止まり。臨時バスで夙川にたどり着いた時は真っ暗でした。大きく地割れた夙川の土手に戦慄し、あたりの建物の惨状に茫然としながら先生の家を探しました。ご無事は千葉で確認していたのですが公衆電話から「先生、泊めてもらえますか」と連絡すると「何や来とったんか、はよ来んかい。国鉄のアパートの近くや」と大変な時なのに暖かく迎えて下さりました。

翌朝、2階を見ると本棚はなぎ倒され膨大な蔵書が滅茶苦茶に散乱していました。早速整理しかけたら、先生は「お前、自費で遠くから来てそんなことしとったら貴重な取材時間がなくなるやろうが。片付けなんかどうでもええから、はよしっかり取材してええ記事書いて報告してくれや」と送り出してくださいました。

6年前、20数年ぶりに関西に戻りました。一年半ほどしてトラブルで通信社を追われ、やむなく独立しました。その頃、柳原先生に会いに行きました。先生は「フリージャーナリストとかいうやっちゃん。大変やろけど頑張れ。お前、馬力あるからなあ」と励ましてくださいました。当時、生活してゆけるのか不安でたまらず心のどこかで昔馴染んだ恩師の御顔を拜んで安心したかったのだと思います。その後、仕事も増え、思い入れのある記事を書いた時やラジオに出演する時など連絡したりしていましたが、音信を怠っていた折の訃報でした。ご心配おかけしたままの不肖の教え子だったと申し分けない思いでいっぱいです。

とりあえずは天国で死神はんとでも一杯やってください。そして草葉の陰から素晴らしい御家族、頭でっかちで生意気だった僕たち教え子のことをいつまでも見守ってくださいね。

柳原博先生、ありがとうございました。さようなら。

平成18年6月18日

訃報

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

(平成18年6月30日現在)

松成 三敏氏 (25回)	根本 博氏 (25回)	湯浅 治郎氏 (23回)	吉水 徳正氏 (22回)	堀江 悦三氏 (22回)	西嶋謙二郎氏 (21回)	松本 正之氏 (21回)	柳原 博氏 (20回)	松田 正男氏 (20回)	相良多喜男氏 (20回)	岩崎 精治氏 (20回)	松田 重英氏 (17回)	渡 謙吾氏 (16回)	片山 一男氏 (16回)	大西 健三氏 (16回)	高島 啓三氏 (15回)	岩橋 直彦氏 (15回)	酒井 秀俊氏 (14回)	稲垣 武夫氏 (14回)	梶田 武二氏 (13回)	寺本 正忠氏 (12回)	高山 三男氏 (11回)	渡邊 康二氏 (8回)	西田 庸藏氏 (7回)	中島 芳春氏 (7回)	山野井 萬氏 (4回)	木船 正雄氏 (4回)
06年1月8日	06年6月4日	05年12月2日	06年2月27日	06年4月4日	06年4月12日	05年9月25日	06年5月18日	06年3月4日	05年3月24日	05年9月3日	04年11月27日	05年12月23日	06年3月9日	06年2月24日	05年9月20日	05年3月26日	05年12月8日	05年3月10日	00年2月11日	05年12月23日	06年2月19日	06年3月30日	05年12月5日	05年11月10日	06年2月9日	05年7月1日

夏の会員総会

ドーバーを掘れ(宇賀克夫氏講演会)

— ヨーロッパの夢英仏海峡トンネルを掘った日本の巨大モグラたち —

8月26日(土)14時~17時 於：ノボテル甲子園

今年度の会員総会は次のような要領にて開催いたします。同窓の友人、知人お誘い合わせの上、ふるってご参加下さい。ご家族同伴も歓迎です。

〈第1部〉ご講演—宇賀克夫氏(37回)

講師の宇賀氏は、1937年兵庫県尼崎市生まれ。甲陽学院中学・高校から、少年時代からあこがれていた造船技術者を志して大阪大学工学部造船学科に進学、61年川崎重工業に入社されましたが、セメント機械設計部に配属となり、翌年より1年間、神戸大学機械工学科を聴講、63年より産業機械開発課でシールド掘進機の開発に取り組んで「鉄のモグラ屋」の道を歩まれました。土木機械部部長となって3年後の88年よりイギリスとフランスを結ぶ海底トンネル「ドーバー海峡鉄道トンネル」プロジェクト・マネージャーを兼務され、百人の技術者を総動員して最先端マシンを完成させ取り組まれましたが、予期せぬ様々なトラブルが続出。不眠不休に近いチームワークでマシンを「世界最強のモグラ」に生まれ変わらせ、91年、工期をはるかに上回る驚異的な速さで、2世紀にわたるヨーロッパの夢をかけた世紀の大工事を成し遂げられました。理事・技師長を経て昨年11月まで大和産業副社長をつとめられ、リタイアされました。

2000年より始まったNHKの人気番組「プロジェクトX~挑戦者たち~」の01年9月25日放送分「巨大モグラ

ドーバーを掘れ」で、日本の技術の力を世界に発揚した意地と執念のドラマとして紹介されました。昨年12月末までに放送された「プロジェクトX」のうち建設工事に関わるものは17番組ですが、海外におけるプロジェクト紹介は少数にとどまります。

今年の会員総会の第1部では、宇賀氏にご講演をいただき、その後、関西文学編集長の河内厚郎氏(52回)との対論などを企画しています。

〈第2部〉懇親会

第2部は会場を変えて、ノボテル甲子園の美味しいお料理と、ご寄贈賜りました日本酒「白鹿」やサントリーのビールとウイスキーで、楽しい懇親の場をもちたいと計画しております。

今年の「ホームカミングデー」にあたるのは37回生と62回生です。ささやかな記念品も用意しております。ふるってご参加下さい。

また、当番学年は57回生で、今西昭氏・箱田光信氏が委員として今回の総会の運営にあたっています。57回の同期生の皆様、多数ご参加下さい。

information

日 時	平成18年8月26日(土)	申込方法	同封の振込用紙で、8月17日(木)までに会費をお振込み下さい。あるいは8月21日(月)までに事務局まで参加のご予約を下さい(葉書、電話、FAX、Eメール)。この場合は特別割引として、一般会員3500円、学生会員・同伴家族は1500円とさせていただきます。
	第1部 14時~15時30分		
	第2部 15時30分~17時		
会 場	ノボテル甲子園 (旧甲子園都ホテル) TEL0798-48-1111	問合せ先	甲陽学院同窓会事務局 〒662-0096 西宮市角石町3-138 TEL 0798-71-4888(月・水・木・金)10時~16時 (8月12日~20日は母校夏期閉鎖期間につき不在) FAX 0798-71-4890 Eメール fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp
会 費	一般会員 4000円(当日会費) 学生会員 2000円(当日会費) 同伴家族 2000円(当日会費) 新卒者(平成18年3月卒) 無料		

※母校への問合せはご遠慮下さい。

- ☆当日の料理・名札等の準備がありますので、できるだけ事前振込かご予約をお願いいたします。
- ☆まだまだ暑い折ですので、当日はカジュアルな服装でご参加いただいで結構です。
- ☆平成15年の役員総会の決議により、新卒者以外の無料会員の制度が廃止になりました。上記の会費にて運営いたしたく、よろしくご了承下さいませようお願い申し上げます。



Superbly located for business or pleasure.

www.novotelkoshien.com

西宮市甲子園高潮町3-30 TEL.0798-48-1111



ノボテル甲子園



▶ A worldwide leader in hotels, tourism and services